

種子島合宿 行事の記録

種子島合宿の記録

2010年の夏合宿は8月6日(金)～8日(日)の日程で、鹿児島県種子島で開催しました(図1)。世話役は村井貴史評議員、花岡善子評議員、西澤真樹子評議員、弘岡拓人評議員、中条武司学芸員、内貴章世学芸員と初宿が担当しました。一般参加者は大人53名、高校生7名、中学生5名、小学生17名の82名という大所帯での合宿になりました(図2)。飛行機の切符を買ってしまった人を落選させるのも申し訳ないとのことで、抽選を行いませんでした。経費が当初よりも安くなった反面、大人数で不自由な面も多くあったかとも思います。参加者のみなさんにはご容赦いただければ幸いです。



図1：種子島合宿での訪問地。

8月6日(金)：種子島空港と西之表湾で集合したのち、長浜海岸で海岸の生き物を観察しました(図3)。本土では絶滅状態となっているイカリモンハンミョウ(裏表紙：図1)やハラビロハンミョウ(図4)が砂浜でたくさん飛び交っていて、感激しました。海岸付近の林はマルバニッケイヤトベラ、ヒメズリハなどから構成され、より海岸に近いところではハイネズの群落となっていました。花が咲いていた植物は、ネコノシタ(図5)、ハマゴウ(葉にはハマゴウハムシ)、グンバイヒルガオ、アツバアサガオ、ハマナデシコなどでした。海岸にはアカミガメの卵、幼体、成体の死体や、クサガメの死体も上がっていました。



図2：ロケットの前で全員の記念写真。宇宙センターにて、内貴学芸員撮影。



図3：長浜海岸に打ち上がったアカミガメを拾う西澤評議員(中央左)ら。中条学芸員撮影。



図4：ハラビロハンミョウ。村井評議員撮影。



図5：ネコノシタ。内貴学芸員撮影。



図6：メヒルギ。内貴学芸員撮影。

宿舎は西之表市の内陸にある「あっぱーらんど」でした。夕食の後は見つけたものをおさらしたあと、ライトトラップも行いました。やや小ぶりのカブトムシやノコギリクワガタが、たくさん飛んできたのが印象的でした。宿舎まわりにはニホンヒキガエル、カナヘビ、ニホントカゲ、ミナミヤモリの姿もありました。

8月7日(土)：宿舎を出て、東部の熊野海岸へ。ここから花岡評議員も合流し、メヒルギ(図6)の生える干潟で、さまざまな生き物を観察しました。メヒルギはちょうど花盛りで、ほかにはハマオモト(ハマユウ)、ハマナタマメ、クサフジ、ボタンボウフウなどの花が咲いていました。ちなみに、ここはマングローブの最北限地のひとつとして知られています。大阪の淀川に名前が因むヨドシロヘリハンミョウ(図7；大阪では絶滅)がたくさん見られました。コキクガシラコウモリ2頭の飛翔が確認されました。



図7：ヨドシロヘリハンミョウ。村井評議員撮影。



図8：宇宙センターをツアー見学。中条学芸員撮影

昼前に観光名所である千座の岩屋へ移動し、美しい景色を眺めながら、みんなでお弁当を食べました。

午後は自然史と関係がないものの、多くの人が楽しみにしていた宇宙センターを訪れました。2班にわかれてセンターのツアーと展示施設見学(図8)と、中条学芸員超オススメの地層観察を行いました(図9)。宿舎に向かう前に、大久保集落近くで九州などから飛来して堆積した火山灰の露頭を観察しました。宿舎は島内屈指の温泉施設がある大和温泉ホテルでした。夕食後、当日に見られたものを勉強会でおさらしたり、温泉に浸かったりして過ごしました。ここではヤクヤモリの姿がありました。

8月8日(日)：雨が降る中、宿舎を後にし、南種子町本村集落に向かいました。到着したときは、まだ雨が降っていましたが、やがて日が差してきました。イヌマキ、タブノキ、ハマビワなどからなる



図9：地層の解説をする中条学芸員。初宿撮影。

海岸林を抜けて、海岸へ出ましたが、風と波が強く危険なので、水際には近付けませんでした。田んぼの周りにコガタノゲンゴロウ（図10）がたくさんいたほか、大隅半島以南にしか分布しないクロイワツクツクが目の前のクロマツの幹にとまって、変な鳴き声を響かせていました。

昼前に門倉岬に移動し、ここでも美しい海岸線を眺めながら、お弁当を食べました。仕掛けたトラップを回収するため、再び長浜海岸へ立ち寄ったあと、スーパーでお土産を買いこんで解散。空港、港それぞれへバスが向かい、各自が帰途につきました。



図10：コガタノゲンゴロウ。村井評議員撮影。

謝辞

現地の情報を事前にいただいた榎戸良裕さん、尾形善之さんほか、合宿実施にあたってご協力いただいた多くの方に御礼申し上げます。

<文責：初宿成彦（博物館学芸員）>